

世界遺産「日光の社寺」 及び門前町地区

(栃木県日光市)

計画期間 平成18年～22年
面積 250.0ha
交付対象事業費 833.5百万円
市人口 94,649人(地区内人口4,861人)
(旧日光市人口16,112人)

ポイント 景観を基本とした「住んでよし・訪れてよし」のまちづくり

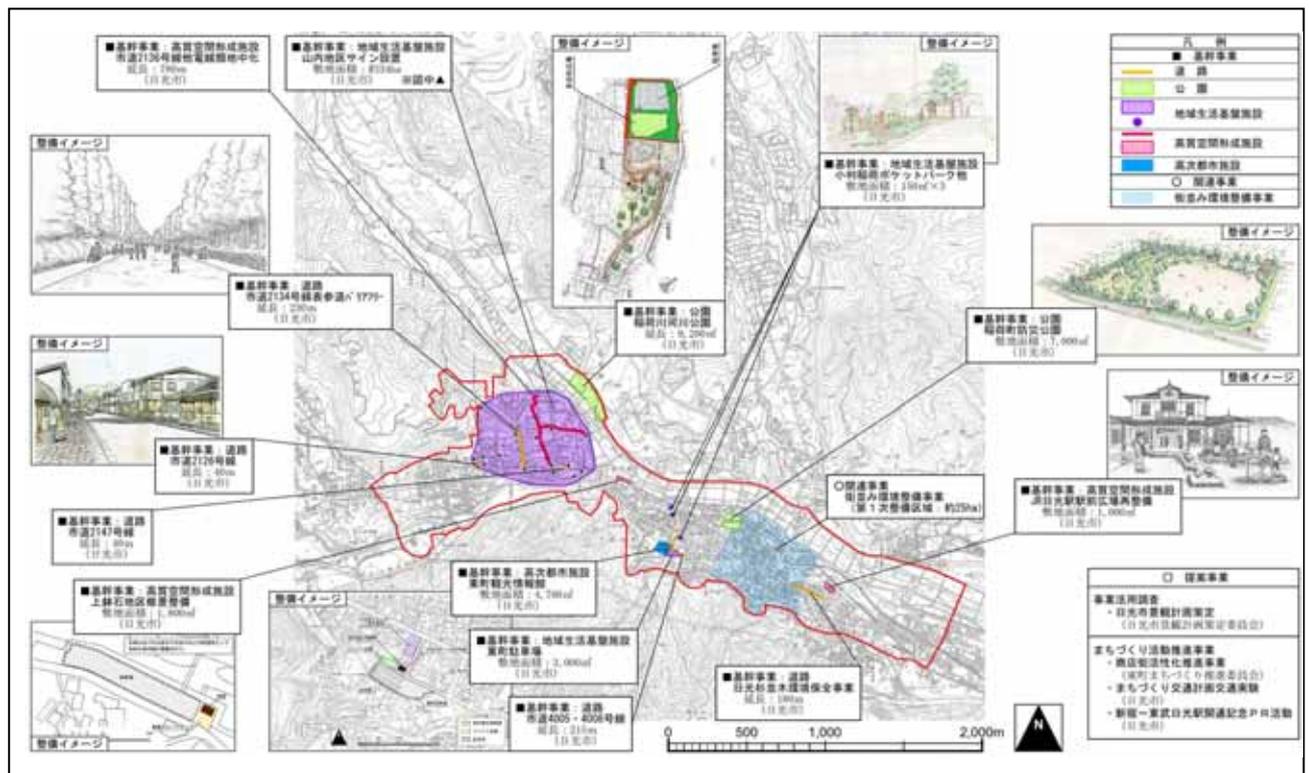
地区概要 本市は歴史的・文化的資源と豊かな自然環境を有する国際観光都市として、世界遺産「日光の社寺」のみならず、市内にある歴史的・文化的資源や地域との連携をテーマとすることで、市民との賛同と協力により再生を図る。

目標 日光市景観計画を基本に、世界遺産「日光の社寺」を有する国際観光文化都市として「住んでよし・訪れてよし」のまちづくりを、市民と協働で実践する。

指標 市民参加ワークショップに、NPO・市民団体関係者が参加し、主役の立場で検討することにより、整備後に市民活動が数多く展開される相乗効果を目標とした。

歩行者交通量 (人/12h)	822	(11年度)	1,200	(22年度)
外来者の滞在時間 (h)	1時間57分	(17年度)	3時間	(22年度)
景観への満足度 (%)	30	(17年度)	50	(22年度)

事業内容 基幹事業(798.5百万円) 道路(延長40m)、公園(1カ所7,000㎡)、市道2136号線他電線類地中化(延長780m)、東町観光駐車場整備(1カ所5,000㎡)、ポケットパーク整備(3箇所450㎡)、JR日光駅前広場再整備(1カ所1,000㎡)、国道119号環境保全事業(延長180m)等
提案事業(35百万円) サイン設置、商店街活性化推進補助、まちづくり交通計画交通実験、景観計画策定



地区の現況と課題

・世界遺産「日光の社寺」の門前町地区には駐車場が少ないため、観光客は「日光の社寺」の側まで行き、「日光の社寺」だけの観光で回遊が少ない。また同様に、本地区での滞在時間も少なく、賑わいにも結びついてこないため、駐車場や広場などの基盤整備が必要となっている。また、市民や観光客が安全に快適に歩ける歩行者空間の整備や世界遺産「日光の社寺」の荘厳な景観を阻害しないような基盤整備が必要となっている。看板等の広告・サインや建物などの景観形成の方針を作成し、国際文化観光都市としてふさわしい景観計画の策定が必要となっている。

提案事業の特徴

「住んでよし・訪れてよし」を実現するために

市民や観光客が安全で快適に歩ける歩行環境整備や交通拠点などのハード整備と、市民が主体の景観計画策定や街並み整備、さらに交通実験を通しての商店会との連携等を基本としている。

市民と一体となった計画づくり

東町駐車場整備計画策定には、完成後の管理・運営のための社会実験として提案事業の「まちづくり交通計画交通実験」をNPO・商店会・市民の協働で実施し、利用者アンケートによる課題の整理を実施している

景観に考慮したPR活動の実施

新宿～東武日光駅開通記念 PR 活動では、来訪者に記念プレートを購入いただき、その金額の一部を景観保全活動資金として民間やNPO 活動に活用するとともに、購入者にも期間限定での市民証を交付し、リピーターの確保や資源のPRに努める。

計画策定プロセス

ワークショップの開催

門前町地区のまちづくり計画策定では、市民を中心に商工会議所・栃木県の協力を得ながら、ワークショップを39回開催した。また、観光地として不可欠な外来者（よそ者・若者）の視点からの課題抽出と意識調査を実施し、計画に反映した。

継続的な市民との対話

ワークショップの参加者が「NPO 日光東町みんなのまちづくり」を設立し、継続したまちづくり活動を推進している。施行地区内にある景観計画・交通計画・JR 東武両駅前・東町まちづくり・西町活性化の各委員会をネットワークし、情報交換やイベント交流、勉強会の開催などを通して「住んでよし・訪れてよし」のソフト施策や人づくりを継続的に実施する。

日光市長斎藤文夫氏のコメント

世界に誇る日光杉並木を見上げ、歴史を感じながら世界遺産「日光の社寺」へと向かうアプローチとして、また、神聖な気持ちを高めるための空間の創出に向け、市民と一体となった演出ができるような整備を行いたい。



秋の交通渋滞対策の様子



市民による杉並木清掃



市民と協働で行った交通実験



ワークショップの様子